

(別紙2-1)

## 1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 12月 17日

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4270201629		
法人名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
事業所名	有限会社 グループホーム カナリアの家		
所在地	長崎県佐世保市日宇町649-9		
自己評価作成日	平成26年11月10日	評価結果市町受理日	平成27年1月8日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/42/index.php</a>
--------------	---

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本評価支援機構
所在地	長崎県島原市南柏野町3118-1
訪問調査日	平成26年12月16日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

開設後12年を迎えているが、いまだ利用者の入れ替わりが少ない。それに伴い、利用者の高齢化と介護度の重度化によって、介護への取り組み方に変化がある。職員の入替わりも少なく、長期の入居によって疑似家族になっている。家族からの看取りの要望も強い。ありのままを受け入れる介護に重点をおいているが、医療との連携によって、認知症の改善や病気の早期発見に努めている。若年性認知症の方の入所によって、スタッフに更なる、認知症に対してのスキルアップとあきらめない考え方が定着しつつある。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ホームは、JR駅、交番、消防署出張所等点在する中にありすべて徒歩圏内である為、暮らしの安全が確保されている。法人クリニックの2階に位置し、日頃の健康管理や病気の早期発見、緊急時の対応等、医療連携体制が整備され、入居者、家族の安心へと繋がっている。管理者はじめ職員は、長い年月を経て高齢化し認知症の傾向にある入居者の、当初からの状況変化に戸惑いながらも日常の軽微な変化を見逃さず、専門医を家族と共に受診する等、医療面と介護面から支える体制作りに努め、各々が“諦めない精神”でスキルアップに励み、規律を守りつつ、チームケアでサービスの質の向上を図られている。近年、入居者の高齢化

に伴い、本人、家族からは慣れ親しんだホームで看取ってほしいとの意向が示されている。職員は、意向に寄り添い支援され、入居者と共に「笑い」、看取りの後の「涙」で、沢山の日々や時間を共有する中、多様な価値観や死生観を学び成長を重ねている。四季折々に行事が計画され、とりわけ秋開催の「カナリア祭り」では運営推進会議で近隣住人に助言を得て、職員家族総出で企画準備を行ない、ボランティアによる市民バンドやフラダンスで盛り上げ、地域を挙げて楽しむ等、地域振興にも貢献されているホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者とスタッフ一同、運営理念を基本にし、各入居者のサービス計画にそって介護を実践している。	リビングに掲示された基本理念を念頭に置き、管理者職員は、年毎に低下する入居者の身体機能に即した目標項目を掲げ、共有し、笑顔で実践に繋がられている。新人職員には業務の中で若い職員に教育係として責任を持たせ、共に学び合える教育体制を整えている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の美容院の利用。幼稚園からの訪問。退去者家族との交流。薬局、歯科、クリニックでのカナリア便りの掲示を行っている。	自治会に加入し、回覧板や掲示版の活用で交流を図られている。身体機能の低下により地域参加が困難な為、外部からの訪問を働きかけている。中学生の職場体験や幼稚園の歌や踊りの慰問は継続されている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	クリニック患者からの入居相談時に個別に悩み相談を受けることがある。また、カナリア祭りでは入居者と過ごしてもらいホームの認知の努力をしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を通じて、お祭りのあり方を聞いたり、発信を行ったり、定着してきた。	参加呼びかけを掲示板に掲示され、包括支援センター、町内会長、家族代表参加で開催され、意見交換が行われている。家族へは、会議後の議事録送付もされている。ホームでの開催を検討したが、入居者の身体状況を考慮し、地区公民館での開催継続の予定である。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	グループホーム協議会と地域包括支援センターの連携を図るため、空床情報の連絡をとっている。	運営推進会議には包括支援センターからの出席があり、実情を理解して頂いている。空床情報の提供等連携を図られている。管理者は、介護認定に関する問い合わせで、改善に繋がられた。	

6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>階段の柵と施錠は家族の了解を得ている。施錠は入居者も開錠する事が出来る。その他、行動制限の声掛けには注意をしている。</p>	<p>グループホーム協議会主催の研修会へ職員3名参加され、事例検討等の研修内容は、職員会議で報告され共有が図られている。階下へ通じる階段には、滑落防止の為に柵が設置され施錠されているが、外部にも家族にも理解を得られている。外出の素振りした様子に見受けられた時には、お誘いし敷地内を散歩して、その後お茶に誘う等身体拘束をしないケアに徹底している。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待がなぜ起こるのかを話し合ったり、ホーム内研修をし、各自学習に努めている。また、強い声掛け等が見られた場合はバックアップの体をとっている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>入居者の一人が後見人制度を利用している。また、後見人制度の利用を検討したこともあり良い勉強になった。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>その都度、文章と口頭で説明し理解を得ている。また、面会時を利用して問題点の有無を確認している。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>面会時、定期的な電話での聞き取りで意見を聞いている。入居者の状態の変化、家族への報告、家族の言葉を支援経過記録に残している。</p>	<p>面会時、電話等で意見聴取に努められている。家族と職員の関係も良好で得られた情報は、「ケース記録」に残し、職員共有が図られている。家族の要望は、即検討されている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>職員が自由に意見を述べる事が出来るように、経営者、管理者は「聞く」姿勢をとっている。また、業務の改善や入居者に合わせた体制作り等それぞれ職員の意見を反映することができる。</p>	<p>管理者は「良い介護支援には、チームワークが必要である。うちの職員は宝である」と言われ、職員は「お互い様」の気持で取り組まれている。施設長はじめ管理者、職員は、意見が出やすい良好な職場作りに勤め、出された意見は即検討され、職員の処遇等、改善に繋がられた。</p>	

12	<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>管理者や主任が勤務状況を施設長に報告し、話し合いで評価されるが、職員の意向も聞く場も設けている。職員の増員等の意向を受け入れている。</p>		
13	<p>○職員を育てる取組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>研修計画を作成し職員に合った研修の受講と、職員の希望する研修、講習受講し、ホームに持ち帰り、ホーム内研修を行い能力の向上に努めている。</p>		
14	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会に参加し、勉強会に参加し、交流を深めている。イベントの時には協力してもらった。管理者同士の情報交換を行っている。</p>		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>日々の生活状況をしっかりと観察しコミュニケーションを図りながら信頼関係を築こうとしている。どんな小さなことでも職員全員情報を共有している。</p>		
16	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>入居の予約時、サービス開始時、導入の段階で幾度となく話し合い、要望を聞いている。</p>		
17	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>家族の意見、入居者の思いを汲み取り、職員を含めたケアカンファレンスを開き対応している。また、サービス導入時には信頼関係を築くことを優先している。他のサービスを利用していた場合はその情報も参考にしている。</p>		

18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	12年の歴史を経ている為、関係性が出来上がり職員、入居者との支え合いが出来ている。一部の利用者とは疑似家族関係になっている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族には日々の生活を定期的に報告している。面会時に一緒にお茶を飲んだり、食事介助をしたりしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者の居室で過ごす場合もあるが、時にはリビングで職員を含めて楽しく会話をしている。入居者の身体状況の低下に伴い、馴染みの人や場所に出かけることが難しい為、面会に来てもらうようにしている。	整髪は、馴染みの美容室に出張をお願いしている。身体機能の低下で外出困難となり、外部からの訪問を働きかけている。30年ぶりに会社の先輩が訪ねて来られたり、娘さんの絵の個展へ外出を予定する等、馴染みの関係を継続できよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士で会話の弾んでいる時は、そっと見守っている。入居者の優しい思いやりを感じる事が多い。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後も時々家族が遊びに来られる。その時には、入居者や職員と一緒に思い出を語り合っすごしている。また、イベントの時には招待している。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	コミュニケーションの中で聞き取っている。困難な場合は、日々の様子や表情などで汲み取っている。	職員は、優しく語りかけ、日常の会話の中で入居者の言葉に傾聴し、「申送りノート」に記し職員共有を図られている。困難な入居者には、言葉を誘うように働きかけ、久しぶりに発せられた言葉を「神の言葉」と称し、意思疎通の瞬間を大切にされている。	

24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴、暮らし方、生活環境など家族や本人に聞き把握に努めている。これまでのサービスは把握している。入居期間の長い方はホームが馴染みの場所となっている場合もある。		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	スタッフで情報交換をし、状態の変化に対応している。できる範囲のお手伝いやレクリエーションを行っている。		
26	10 ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族、主治医、本人の思いをくみ取り、入居者にあつた介護計画の作成に努めている。家族の来所時や電話で聞き取りをし、介護計画に反映している。	入居者担当職員は、具体的な情報を基に介護計画案を作成されている。主治医の意見も取り入れ、在籍職員でサービス検討会議で検討され介護計画が作成されている。随時の見直しで入居者の現状に即した介護支援となっている。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、表情動きや些細な発言や気付いた事を伝達ノートや個人ケースに記録し職員間で共有している。その情報をもとに実践を行っている。		
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	時々の状態、状況に応じ職員間で話し合い、個々のニーズに対応したサービス提供をしている。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加していたが、身体状況の変化により参加できなくなっている為、ホームの行事に参加を促し、入居者と一緒に楽しめるように努めている。		

30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望で受診、往診ができる。また、専門科受診の要望があった場合は、主治医と話し合い受診に向けて支援を行っている。	全入居者が、階下の法人クリニックが主治医となり、受診往診共待ち時間がない為、身体負担が軽減できる。歯科は、往診受診対応可能で、病院の送迎もある。専門家受診は、家族同行受診を基本として、情報の周知徹底を図られている。医療連携体制が整備され、緊急時も安心と言える。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月4回の訪問看護師への情報提供に加えて、事業所の1階がクリニックの為、入居者に変化があった場合は看護師、主治医に報告を行い、受診、往診が受けられる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際には家族、提携病院との情報交換を行い、早期退院できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期についての方針を説明し聞き取りを行い、記録している。重度化した場合は、その都度、主治医の同席のもと説明を行い方針を決めている。	入居時、終末期指針を提示し、本人家族の意向伺いがあるが、状況変化で主治医を交えた随時の意向確認があり、記録に残している。本人家族からは、看取りの意向が多く寄せられ、意向に寄り添い支援されている。職員は研修で自己研鑽に励み、看取り後のメンタル面でのフォローもある職場環境である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時は看護師、主治医との連携により指示を受けて対応している。年2回の防火訓練時に救急救命の指導を受けてシュミレーションし、スキルアップに努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を日常的に防火管理及び消火、避難訓練等を実施することにより、全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。また、火災等を未然に防ぐための対策をしている。	火災時避難訓練は定期的に行っているが、水害、地震時の研修は行っていないが、立地条件を考えると、救助を待つ方が有効と考えられる為マニュアルを作成し地域住民の受け入れを検討している。	消防署立合いで定期的な火災訓練が実施されている。2階に位置し重度の入居者の避難誘導（特に夜間）は、懸念されるが、徒歩圏内に消防署支所があり実情を伝え、緊急時体制が整備されている。災害時は、建物が頑丈である為、近隣住人の受け入れを検討されている。日々の点検を励行し火災を未然に防ぐ対策がされている。	入居者情報は、USB保存されているが、避難先で活用できる緊急持出ファイル（写真、連絡先、服薬、既往症等）として整備されることが望まれる。訓練後の、検証、反省等記録に残し、次の訓練に繋げられることに期待します。

IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声掛けのタイミング、声のトーン、入居者に合った言葉の掛け方、その場にあった言葉の工夫をしながら対応している。また、職員同士では入居者の羞恥心配慮の為にイニシャルで伝達している。 職員は、入居者の生活歴をよく把握し、返答を引き出すような言葉かけをされている。入居者の言葉を受け入れ、決して否定しないように職員各々が心掛けています。以前はできていた裁縫や習字も困難であるが、できる範囲の活動（ぬり絵、歌）を楽しめるように支援されている。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その場の状況で小さな事でも自己決定したり、意思表示出来るように支援し、表情や小さなうなずきで思いを汲み取っている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	時間の流れや決まりはあるが、できる限り意志を尊重したり、思いを汲み取り、その人にあつた対応をしている。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	個性を活かした身だしなみは出来ている。季節に合わない服装の場合は更衣を促し対応している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	会話の中で好みを引出し、メニューに取り入れている。咀嚼、嚥下機能の低下により、食材が限られてきているが、調理の工夫で対応している。できるだけ手伝ってもらっている。 職員交替で1週間毎の献立作成と調理が行なわれ、入居者に合わせた食形態で提供されている。入居者は、自分のペースで食され、年末のたこ焼きパーティーを楽しみにされている。経管栄養をしなくて済むように生きる力となる為の経口摂取にも努められている。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分はチェック表を使い把握している。個々の咀嚼、嚥下に合わせた形状に工夫をしている。野菜を十分に使い繊維質を撮れるようにしている。

42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声を掛け対応している。自身で出来ない入居者は職員の介助で行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。尿意便意の衰えている方もパットのみで対応し、出来るだけトイレでの排泄を支援している。	1人を除く全員が布パンツにパッドを使用され、チェック表に基づき早めの誘導支援が行われている。入居時、オムツの入居者が支援により改善された例がある。管理者は、洗濯時、マジックでは消えてしまうので、持ち物の間違いを防ぐ為、パンツにインシタルで刺繍を施す等、入居者への配慮が感じられる。家族の料金の負担軽減も図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、繊維質の多い食材をバランスよく取り入れ、運動、排泄時の姿勢、マッサージをしている。それでもなお改善の見られない場合は便秘薬を使用している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者6名の方が入浴時に職員2名の介助が必要となり、個別の対応は難しい。入浴日以外の日の失禁等の場合はその都度入浴で対応している。また、毎朝、臀部陰部の清拭を行っている。	介護度が上がり職員の介助が欠かせない入居者を、職員は効率よく、安全に介助する工夫をされている。入居者の「癒し」の時間をコミュニケーションの場の一つとして活用されている。毎朝の清拭で清潔保持に配慮されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を通して、個々に合わせた生活のリズムを把握し、本人の意思を尊重して過ごし易いように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ケースに薬事表を入れており、服薬変更指示のあった場合は申し送りノート、伝達ノートに記載し、職員が把握出来るようにしている。服薬時には誤薬のないように点呼で確認している。		

48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	能力に応じた様々な事が出来るように、お手伝いやレクリエーションを通じて働きかけている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	身体状況や病状の変化により以前より外出の機会は減少している。歩ける方は散歩に出かけている。年2回ホームでの外出日を設け、楽しんでいる。また、家族の協力のもと出かけられるように支援している。	身体機能低下で以前はできていた外出も困難となっている。外出を希望される入居者は、天候次第でプランターの水やりや近隣散歩を楽しまれている。家族にも協力を得ながら、秋には「海きさら」へ出掛け、イルカのショーを楽しまれた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	介護度の重度化や高齢化によって、金銭管理は困難になっている。また認知症状により、金銭を所持するととられ妄想が出現する為、難しい。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望を聞き、いつでも電話できるように支援をしている。手紙や文章の文字が小さい場合は読み上げたり、拡大コピーで対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱を招きそうな鏡、窓などにはレースのカーテンで対応し、1日の光の変化に応じて開閉しており、リビングや居室内の温度調節もこまめに行っている。手作りのカレンダーや季節ごとの装飾を行っている、。	居室へ続く廊下からの冷気を遮る為や入居者の混乱を防ぐ為、鏡にはカーテンが付けられている。温度計の設置はあるが入居者各々に合わせて衣類調節する等、体調管理に注意をして居心地良く過ごせるように配慮されている。清潔保持の為、敷き詰めカーペットから福祉介護仕様の床材へのリフォーム計画がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ、テーブル席に座る時は本人の意思を確認し好きなようにしてもらっている。入居者同士の語らいが多くなり、支え合う姿も見られる。		

54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	新しい入居者には使い慣れたものをもと家族に話している。開設時から入居している方は使い慣れた物ではなかったが、今では使い慣れたものとなっている。	ベッド、箆箆以外は、入居者の好みで持ち込みが出来る。居住年数が長く、自由に居心地良く過ごされている。居室入口には、入居者の頑張りを称える表彰状が飾られている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者のわかりやすい場所に置き、日ごろ使用する物は、位置を変えないようにしている。		
V アウトカム項目					
56		職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57		利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58		利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59		利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60		利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61		利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている。 (参考項目：30, 31)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62		利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)		○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63		職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)		○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない